

とおり、本市のコミュニティにおいては祭礼等を介した住民間の脈々たる連帯感と結束力が強く根付いております。今後の取り組みの過程におきましては、各コミュニティが持つ連帯感と結束力を本市全域における自主防災組織の結成に結び付けまして、コミュニティ防災の“しくみづくり”、さらには防災に係る「市民力」の強化を推進してまいりたいと存じます。

注目される「分水問題」

現在、多数の市民の皆様が関心を寄せられている課題の一つに、松山市への分水問題が挙げられます。

御案内のとおり、去る1月12日には松山市の中村市長と一橋市議会議長から県営西条地区工業用水の一部転用について、本市に理解と協力を求める要望書が提出されたところであります。爾来、この分水問題に対する本市の対応が広く市外からも注目をされておりますが、本市の「水」は限りある重

要な天与の資源であり市民共有の貴重な財産でもありまして、かねてから申し上げているとおり、この「水」を守るといふ私のスタンスを改めて明確にしておきたいと存じます。

現在、庁内に設置している「水資源対策調査研究会」におきまして、水資源の保全・活用方法等を検討しているところでありますが、この分水問題につきましては今後とも積極的な情報発信に努めながら議論を喚起しまして、市民や市議会議員の皆様と共に真剣かつ慎重に取り組んでまいれる所存であります。

「人がつどい、まちが輝く、快適環境実感都市」をめざして

このように一体感のあるまちづくりが進む中、今議会に提案し御審議を賜ります「西条市総合計画基本構想(案)」は、平成27年度を目標年次とした向こう10か年における本市のまちづくりの指針となるものであります。

この基本構想におきましては「人がつどい、まちが輝く、快適環境実感都市」を本市がめざす将来都市像として掲げておりますが、この将来都市像は合併協議会委員の皆様をはじめ、旧2市2町の市町議会議員および住民の皆様が真摯な議論を重ねられた末に導き出されたものでありまして、引き続きその精神を尊重しながら、将来都市像の実現に向けたまちづくりを進めてまいります。

経営感覚と戦略的思考をもってまちづくりを

私は、市民の皆様からの厳粛な負託を賜りまして初代市長に就任して以来「都市の自立と活力の喚起」「都市の個性の創出と創造力の発揮」「都市間の交流と連携の強化」を政策の基本理念とし「市民と肌でふれあえる、垣根のない普段着の市政」を政治信条としてまいりました。

今後におきまして、こうした考えに加え、これまで申し上げてまいりました発想を経営感覚と戦略的思考をもつてまちづくりに活かしながら、様々な行政課題に全力をあげて取り組む決意であります。

新年度施策の主な内容

健康で幸せな暮らしの実現

■高齢者福祉の充実

保健福祉事業の中に老人保健事業、介護予防・地域支え合い事業等を再編した地域支援事業を創設するとともに、各種事業内容のさらなる充実を図ります。

■障害者福祉の充実

「障害者自立支援法」の施行を受け、利用者の目線に立った円滑な制度運用に努めるとともに、福祉基金事業による障害者福祉サービスの充実に努めます。

■健康な生活の支援

生活習慣病の発症・重症化の予防に努めるとともに、新たに特定不妊治療を受けた方への治療費の一部助成制度を創設します。

■子育て環境の充実

保育サービス機能の強化・充実に努めるとともに、新たに24時間対応の夜間保育にも取り組みます。さらに、各種子育て施策を実施し、家庭教育力の充実と子どもの健全育成を図ります。

自然環境豊かな地域の形成

■環境施策の方針づくり

引き続き、地球温暖化対策を含めた統一的な施策方針としての環境基本計画の策定に取り組みます。

■快適な暮らしの保全

廃棄物の適正な処理を図るとともに、浄化槽の普及による公共用水域の水質汚濁防止に努めます。

■新エネルギー利用の支援

新たな一般廃棄物処分場の建設に関し生活環境影響調査等を実施し、事業の進捗を図るほか、住宅用太陽光発電システムの設置者に対する補助制度を再構築して、市民による新エネルギー利用を積極的に支援します。

安心で快適に暮らせる生活基盤の整備

■都市基盤の整備

JR伊予西条駅周辺ならびに総合福祉センター周辺の拠点整備や、壬生川地区における小型船だまり建設工事を継続して実施します。



▲黒瀬ダム